令和 8 年度　第6学年児童　（黄色のセルに第6学年時の年度を記入してください）

授業改善推進中期プラン　国語〔小学校第6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項目	内　容
令和6年度第4学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	○読書が好きな児童が多く、空いた時間に集中して本を読んでいる。 ▲書く活動を苦手に感じている児童が多く、自分の考えをまとめたり、文章を構成したりする力が不十分である。 ▲文章の読み取りでは、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことが理解できていない。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・複数の情報を比較・関連付けて読み取る力。
		具体的な授業改善の方策	・日常の言語活動を通して語彙を増やし、表現する活動を多く取り入れる。 ・玉川タイム10分間チャレンジ（読むこと・話すこと聞くこと・書くこと）を設定し、読み解くことを習慣付ける。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・漢字に対する苦手意識は多くの児童が克服し、第4学年までに習う漢字を身に付けることができた。 ・文章の読み取りに関しては、何を問われているかを考えて答える力を高める必要がある。
令和7年度第5学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○俳句や短歌などが好きな児童が多く、作品作りに意欲的に取り組んでいる。 ▲該当学年までに配当されている漢字を正しく書いたり使ったりすることができない。 ▲書く活動では、自分の考えを具体的に書いたり、書いた文章を読み直し修正したりすることが苦手。 ▲読む活動では、物語の全体像や文章の要旨をとらえることが苦手。 ▲話す・聞く活動では、話し合いの中で考えを広げることが苦手。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・文章校正する力。 ・文章の大切な部分に気付き読む力。 ・自分の考えを広げたり深めたりする力。
		具体的な授業改善の方策	・友達と書いた文章を読み合う機会を増やし、互いにアドバイスを伝え合えるようにする。 ・玉川タイム１０分間チャレンジ（読むこと・話すこと聞くこと・書くこと）を設定し、読み解くことを習慣付ける。 ・文章の大事な部分に線を引いたり、要約したりして、大切な部分を可視化できるようにする。 ・様々な教科の中で、ペアやグループなど小集団の中で、自分の考えを深めたり広げたりする場面を設ける。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課	**・「玉川タイム10分間チャレンジ（読むこと・話すこと・聞くこと・書くこと）」を設定し、文章を読み解き、自分の考えを書く活動を継続して行ったことで、文章の内容を捉え、問われていることに応じて自分の考えを書くことができる児童が増えてきた。 ・文章から必要な情報を取り出したり、根拠を明確にして自分の考えを表現したりすることには、まだ個人差が見られる。 第6学年に向けて、文章を正確に読み取る力をさらに高めるとともに、根拠をもとに自分の考えを筋道立てて表現する活動を継続していく必要がある。**
令和8年度第6学年	令和8年　月	学習に関する児童の実態・課題	○「玉川タイム10分間チャレンジ（読むこと・話すこと・聞くこと・書くこと）」の継続的な取組により、無解答の児童が減少し、自分の考えを文章で表現する力が向上した。 ▲目的や意図に応じて文章から論旨を読み取り、「話したり・聞いたり」することによって確実に読み解き、論旨に対する自分の考えを「聞くこと」により説明し、自分の考えを深め、拡げることに課題がある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・文章の構成や論理の展開を捉える力 ・根拠をもって考えを伝え、対話を通して深める力
		具体的な授業改善の方策	・「玉川タイム10分間チャレンジ」を継続的に実施し、文章の構成や論理の展開を捉え、根拠をもって自分の考えを書いたり、伝え合ったりする活動を充実させる。 ・ペアやグループで根拠を示しながら自分の考えを伝え合い、共通点や相違点を比較した上で、自分の考えを見直したり、付け加えたりする活動を設定する。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	

令和 8 年度　第6学年児童　（黄色のセルに第6学年時の年度を記入してください）

授業改善推進中期プラン　算数〔小学校第6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項目	内容
令和6年度第4学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	▲単純な四則計算を活用しての問題解決について理解度には差がある。特に、文章問題になると聞かれていることについて理解できず、解けない児童が多い。 ▲かけ算九九について定着していない児童が各学級に複数人いる。また、学習内容の積み重ねが不足している児童が多い。（特別支援児童を除く）
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・問題の意味を理解し、問題解決の方法を自分で取捨選択できる力。 ・問題解決学習について、既習学習を活かして解決する力。
		具体的な授業改善の方策	・一単位時間の振り返りを必ず行い、次時の見通しを明確にしていく。 ・問題文において、「分かっていること」「聞かれていること」「求めること」の関係に目を向けた意識付けを指導する。また、文章問題の内容において、具体物の提示やテープ図の活用などの工夫を行っていく。 ・思考力、判断力、表現力等を向上するために、玉川タイムを活用して、計算、文章問題解決プリントに取り組む。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・学力が高い児童は意欲が高く、発展的な問題にも挑戦する。一方で、学力低い児童は、四則計算の定着が低いため、間違いや無回答の児童がいるため、問題プリントを繰り返し取り組むことで、基礎基本の力を向上させていく。 ・思考力・判断力・表現力等の向上のために、文章問題を多く取り入れ、また、問題づくりを行うことで、学習の広がりに繋げる。 ・教え合い学習（インプット⇒アウトプット）での深まりに取り組んでいく。
令和7年度第5学年	令和7年10月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・理解できたことを友達に教えることに意欲的である。 ▲課題 ・四則計算や分数などの数の概念の理解が十分でない児童の割合が高い。
		教科で身に付けさせたい資	・既習の内容（基礎・基本）を身に付け、既習事項と関連付けて考えられる力。
		具体的な授業改善の方策	・既習の内容（基礎・基本）を繰り返し指導し、理解の定着を図る。 ・数学的活動を通して図式化したり、動画で示したりして説明する場面を設定し、児童の意味理解を促す。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・既習事項が十分に定着していない児童が多く、学習内容の理解や習熟度に個人差が見られる。一方で、課題に対して自分なりに考えようとする姿も見られる。第6学年に向けては、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るとともに、既習事項を活用して課題を解決する力や、自分の考えを根拠を明確にして説明する力を育成することが課題である。
令和8年度第6学年	令和8年　月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・理解できたことを友達に教えることに意欲的である。 ▲課題 ・四則計算や小数・分数などの数の概念の理解が十分でない児童の割合が高い。
		教科で身に付けさせたい資	・既習の内容（基礎・基本）を身に付け、既習事項と関連付けて考えられる力。
		具体的な授業改善の方策	・既習の内容の練習を繰り返すことで、理解の定着を図る。 ・単元ごとに教師側から教える（提示する）場面と子供に考えさせる場面（見出す）を習熟度に合わせて設定していく。 ・新出の性質や法則について、操作的活動を通して意味理解を深める。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事	